

群馬県出土の縄文時代土製耳飾り

— 中期から後期前半 —

谷 藤 保 彦

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

- | | |
|------------------------------------|--------------|
| 1. はじめに | 4. 施文文様 |
| 2. 土製耳飾りの主な出土例
<北毛地域・西毛地域・東毛地域> | 5. 時期的な傾向と特徴 |
| 3. 形態分類 | 6. おわりに |

—— 要 旨 ——

縄文時代の中でも装身具としての耳飾り研究について、これまでに多くの先学によって研究対象とされてきたことは周知のとおりである。中でも、1941年の樋口清之博士による「滑車形耳飾考」(『考古学評論』4)は、耳飾り研究における最も代表される論考の一つである。また、近年では、玉文化研究会による玦状耳飾りの全国的な集成が進められ、縄文時代後・晩期の耳飾りが多量に出土した長野県松本市エリ穴遺跡の本報告書が2018年に刊行されたことは、記憶に新しいところである。

群馬県内においても縄文時代の耳飾りはよく知られている。重要文化財に指定されている桐生市千網谷戸遺跡や榛東村茅野遺跡で出土した耳飾りは著名で、他にも多くの遺跡から出土している。しかし、その実態は、殆ど把握されていないのが現状である。筆者は、以前に群馬県内出土の玦状耳飾りを対象に集成を行ってきた(谷藤2002・2010)が、それは縄文時代前期までの資料集成であった。そこで、中期以降の土製耳飾りを対象に資料集成を図ることで、県内における耳飾りの実態を明らかとすることを目的に、本稿では中期から後期前葉の資料を集成し、若干の検討を加えることとした。その結果、通常とは異なる四角柱を呈する特異な形状の存在や、臼形と滑車形の耳飾りが先行して存在し、集成中で最多の鼓形は加曽利E2・3式期にピークがあり、スタンプ形もその同時期の限定される状況にある。そうした中、別な視点からの今後の検討課題も見えてきた。

キーワード

対象時代 縄文時代
対象地域 群馬県
研究対象 土製耳飾り

1. はじめに

縄文時代の中でも装身具としての耳飾り研究は、これまでも多くの先学によって研究対象とされてきた。中でも、1941年の樋口清之博士による「滑車形耳飾考」(『考古学評論』4)は、耳飾り研究における最も代表される論考の一つである。また、近年では、玉文化研究会による玦状耳飾りの全国的な集成、縄文時代後・晩期の耳飾りが多量に出土した長野県松本市エリ穴遺跡の本報告書が刊行されたことは記憶に新しいところである。しかし、近年における土製耳飾り研究は低迷で、その集成もほとんど行われていないのが現状である。

筆者は縄文時代の土器を扱う中で、広域な交差編年、地域間交渉、地域性を考えるにあたり、土器以外でも同様な現象を見出すことができれば、より補完することができると考え、これまでも「関東内陸部における縄文時代中期末・後期初頭の「土製貝輪形腕輪」」(谷藤2011)や「群馬県内におけるヒスイ製大珠と垂飾り」(谷藤2012)、「縄文時代前期前葉の「コの字形石敷炉」」(谷藤他2014)、「縄文時代前期初頭を画期とする玉飾り」(谷藤2016)、「群馬県出土の三角壺形土製・石製品」(谷藤2017)など、様々な遺物・遺構について集成してきた。

今回は群馬県内出土の土製耳飾りについて集成し、その形態や文様等の時期的な変遷、さらには周辺地域との差異を検討し、地域的な様相を明らかにすることを研究目的とした。しかし、集成量はかなりな量に上ることが予測されることから、時期的な分割を図ることとした。そこで本稿では、縄文時代中期から後期前葉までの土製耳飾りを対象とした群馬県内の集成し、遺構内出土土器からの時期の確定、形態および文様の分類を行い、この時期における耳飾りの様相を明らかにしたい。

なお、集成にあたっては、報告資料を中心に、計測値は報告の記載に従っているが、新たに図から計測したものも多い。

2. 土製耳飾りの主な出土例

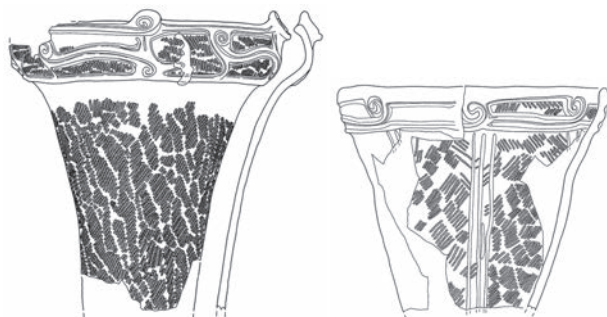
現段階(2020年10月)で集成できた中期から後期前葉の土製耳飾りは、54遺跡215点であった。他にも集成しきれていない資料はあると思われるが、後日、集成に加えたい。以下、土製耳飾りの時期を確認するため、遺構に伴い出土した事例を中心に、地域ごとに記す。

<北毛地域>

渋川市道訓前遺跡

J-16号住居からは、下図に示した加曽利E2式の土器と共に、No.3とした表裏面が凸状を呈し、表裏面に同様の3方向の2重弧線文と刺突文を施した耳飾りが

出土している。

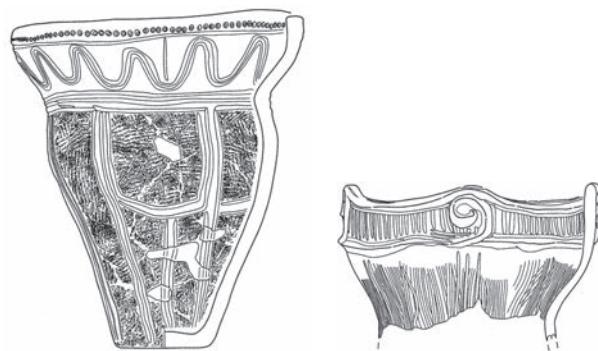


渋川市小室高田遺跡

J-9号住居(2005年報告)からは、下図に示した加曽利E2~3式の土器と共に、No.6とした表面がやや凹状となり、表裏面に同様な放射状の沈線文を施した耳飾り。No.7とした表面がやや凸状を呈し、表裏面に同様な刺突文を施した耳飾りの計2点が出土している。



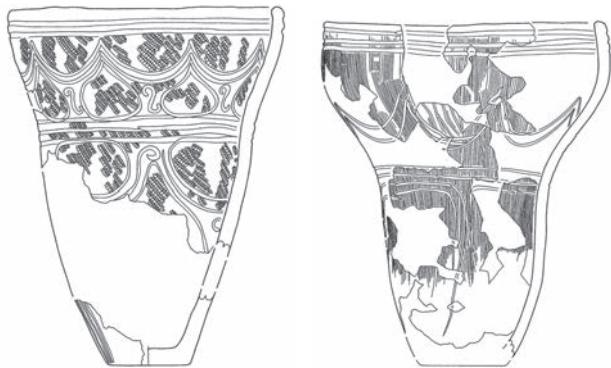
J-29号住居(2005年報告)からは、下図に示した加曽利E2式の土器と共に、No.8とした表裏面がやや凸状を呈し、表裏面とも同様な刺突文を施した施した耳飾り。No.9とした表裏面が平坦となる滑車形の耳飾りととの計2点が出土している。



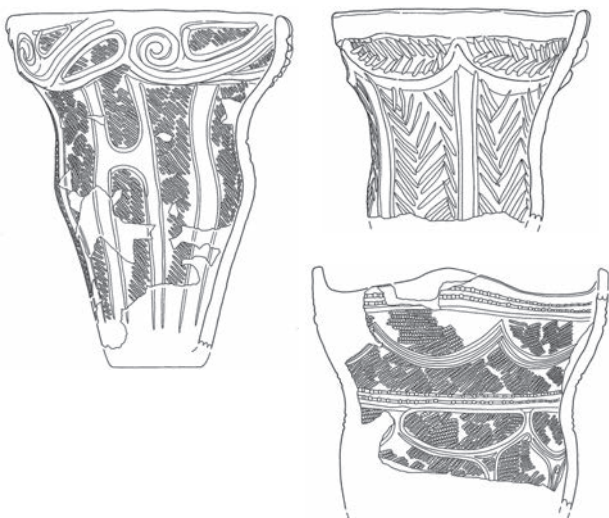
J-3号住居(2006年報告)からは、下図に示した加曾利E3式の土器と共に、No.10とした表裏面が平坦を呈し、表裏面とも同様な刺突文を施した施した耳飾りが出土している。



J-8号住居(2006年報告)からは、下図に示した加曾利E3式の土器と共に、No.11とした表裏面が平坦となる滑車形の耳飾りが出土している。

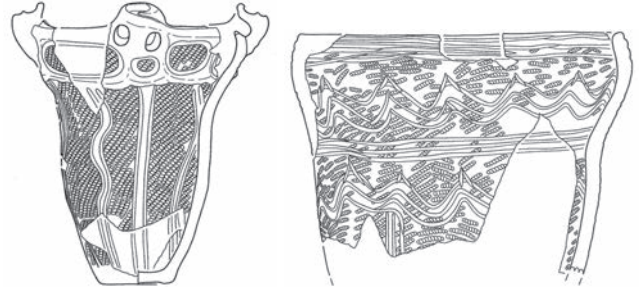


J-16号住居(2006年報告)からは、下図に示した加曾利E3式の土器と共に、No.12・13とした表裏面が平坦となり、表裏面とも同様な刺突文を施した施した耳飾り。No.14とした表裏面がやや凸状を呈し、表裏面とも同様な渦巻文と刺突文を施した耳飾りの計3点が出土している。



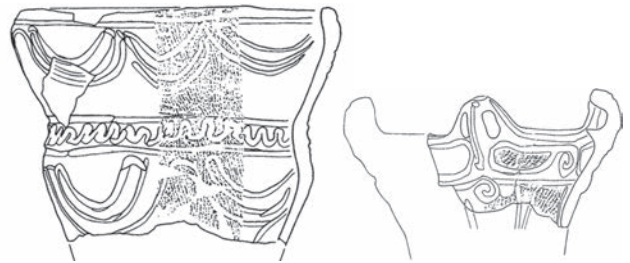
J-17号住居(2006年報告)からは、下図に示した加曾利E3式の土器と共に、No.15とした表面がやや凸状

となり、3方向に2重の弧線文を施した施した耳飾り。No.16とした表裏面は平坦で、表裏面とも同様な渦巻文を施した施した耳飾り。No.17とした表面が凸状で、裏面はやや凸状を呈し、表裏面とも同様な3方向の弧線文と刺突文を施した耳飾りの計3点が出土している。



渋川市三原田遺跡

3-7住居からは、下図に示した加曾利E3式の土器と共に、No.21とした表裏面が平坦となり、表裏面とも同様に2方向の2重弧線文を施した耳飾りが出土している。

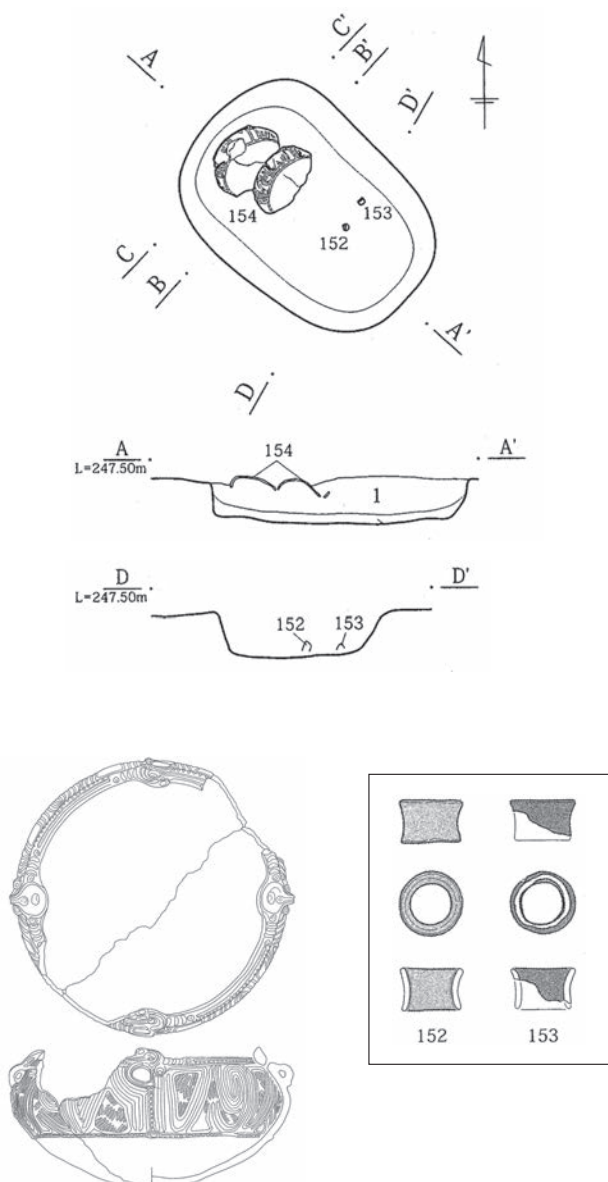


2-2住居からは、下図に示した称名寺Iの土器と共に、No.26とした裏面は平坦で、刺突文を施した耳飾りの半欠品が出土している。



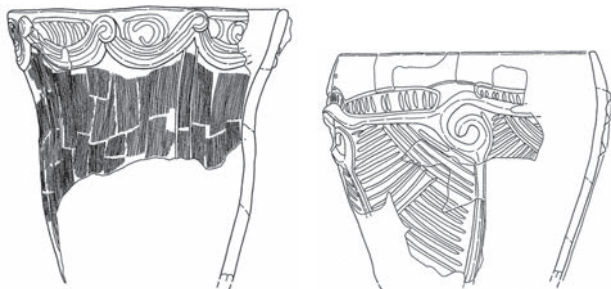
榛東村十二前遺跡

SK-328として報告された土坑からは、下図に示したように頭部位置と思われる両側に一対の耳飾りと二つに分割された堀之内1式の浅鉢土器出土しており、土壌墓内における土器の供伴例に注目が寄せられている。出土した耳飾りは、造り・大きさ共に同じで、しかも赤彩が施されている。本集成では、この2点の耳飾りをNo.57・58として扱っている。



長野原町長野原一本松遺跡

5-156号住居からは、下図に示した加曽利E2併行の土器と共に、No.69とした表裏面がやや凸状を呈し、表裏面とも同様な入組状の渦巻文を施した耳飾りが出土している。

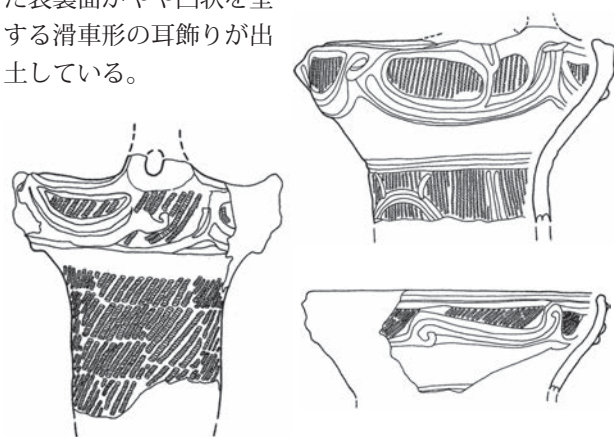


上記以外にも同地域では、渋川市下遠原遺跡C区J-12号住居で加曽利E1～2式に伴うNo.2、東吾妻町上郷岡原遺跡IV区436号土坑で称名寺I式に伴うNo.65、長野原町横壁中村遺跡28区18号住居での称名寺I式に伴うNo.72の耳飾りがそれぞれ出土している。

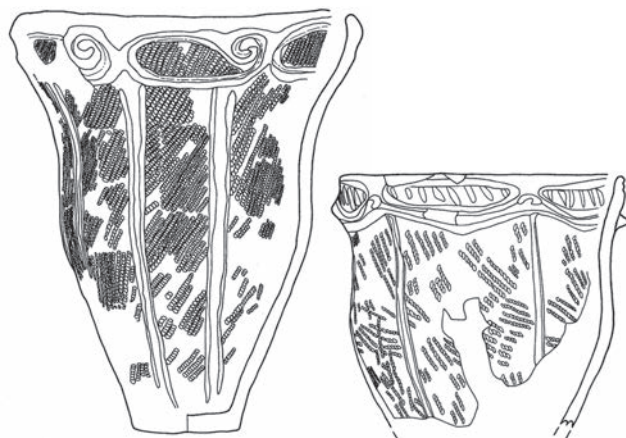
<西毛地域>

高崎市白川傘松遺跡

4号住居からは、下図に示した加曽利E1～2式の土器と共に、No.81とした表裏面がやや凸状を呈する滑車形の耳飾りが出土している。



14号住居からは、下図に示した加曽利E3式の土器と共に、No.82とした表裏面が概ね平坦で、表面に2方向の重複する弧線文を施した耳飾りが出土している。



同遺跡からは、他に23号住居で加曽利E3式に伴うNo.83・84、72号住居から加曽利E3に伴うNo.85の耳飾りがそれぞれ出土している。

安中市大道南Ⅱ遺跡

J-3号住居からは、下図に示した加曽利E3式の土器と共に、No.120とした表面が凸状で、裏面は平坦を呈し、表面に渦巻文を施した耳飾りが出土。

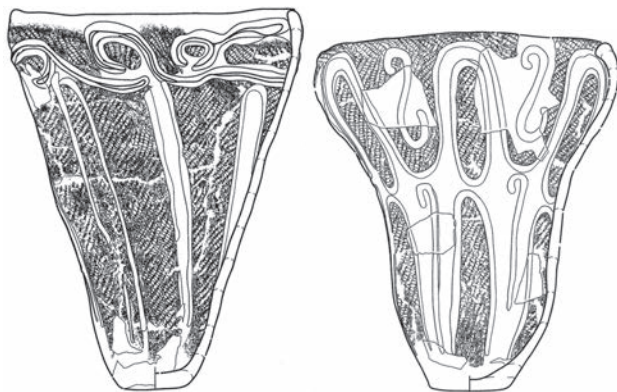


J－6号住居からは、下図に示した加曽利E3式の土器と共に、No.121とした表面は凸状で、裏面はやや凸状を呈し、表面に2方向の2重弧線文と刺突文を施した耳飾りが出土している。



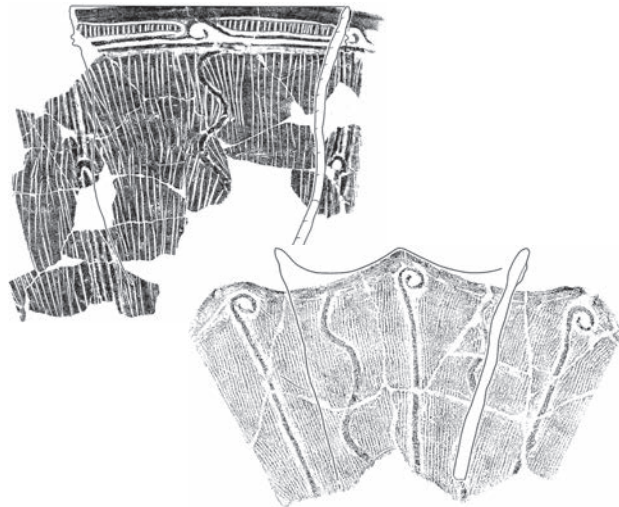
安中市人見東中原遺跡

J－5号住居からは、下図に示した加曽利E3式の土器と共に、No.131とした凸状となる下面に渦巻文と細い刺突文を施し、もう一方の端部を欠損したもので、スタンプ形を呈する。



安中市二軒在家原田遺跡

J－27b号住居からは、下図に示した加曽利E2式の土器と共に、No.132とした表面が凸状で、裏面はやや凸状を呈し、表裏面とも同様な刺突文を施した耳飾りが出土している。



J－47号住居からは、下図に示した加曽利E2式の土器と共に、No.133とした表面が凸状で、裏面は平坦となり、表裏面とも同様な刺突文を施した耳飾りが出土している。



D－25号土坑からは、下図に示した加曽利E2～3式の土器と共に、No.134とした表裏面がほぼ平坦となる滑車形の耳飾りが出土している。

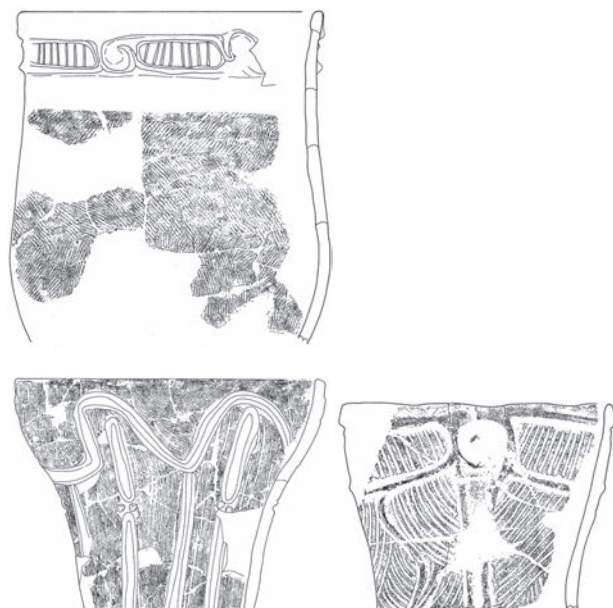
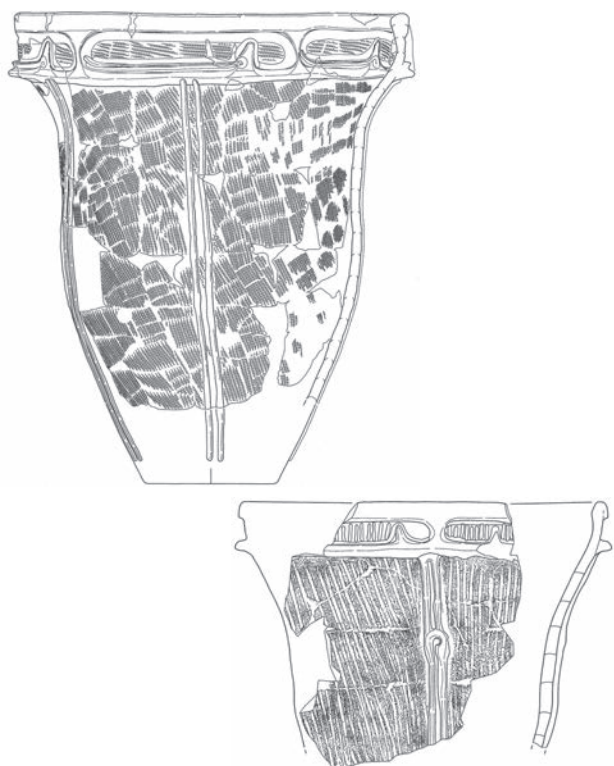


安中市二軒在家原田Ⅱ遺跡

J－17号住居からは、下図に示した加曽利E2式の土器と共に、No.136とした表面が凸状で、裏面は平坦を呈し、表裏面とも同様な刺突文を施した耳飾りが出土している。



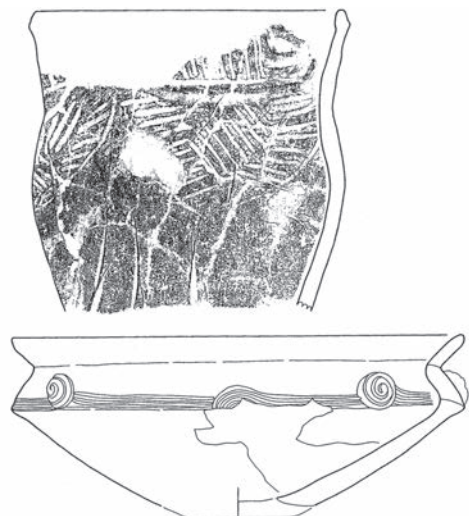
J－27号住居からは、下図に示した加曽利E2式の土器と共に、No.137とした表裏面がやや凸状を呈し、表面には刺突文、裏面に渦巻文を施した耳飾りが出土している。



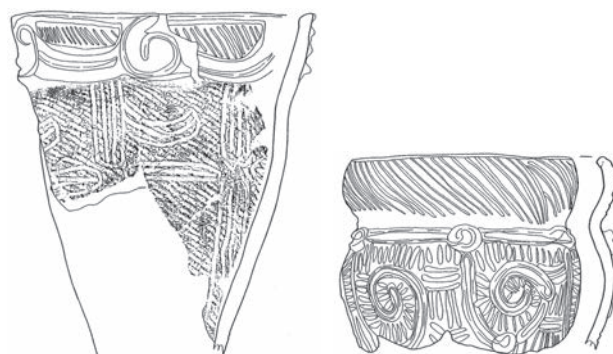
104号住居からは、下図に示した加曽利E2～3式の土器と共に、No.143とした滑車形の耳飾りが出土している。

安中市新堀東源ヶ原遺跡

9号住居からは、下図に示した加曽利E2式の土器と共に、No.139としたやや凸状となる下面に刺突文を施し、側面の括れは明瞭で、上端部がやや膨らむスタンブ形を呈するものが出土している。

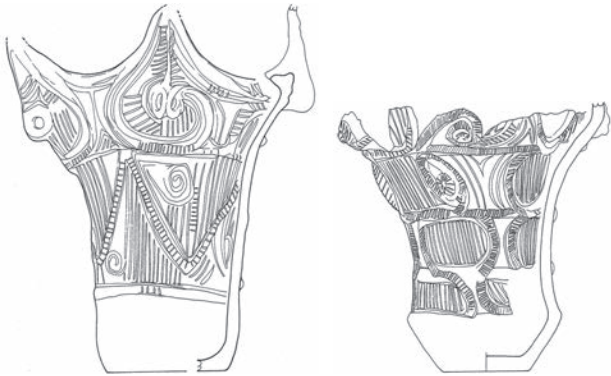


163号住居からは、下図に示した加曽利E3式の土器と共に、No.144とした凸状となる下面に刺突文を施し、側面の括れは不明瞭で長く、上端部が窄まるスタンブ形を呈するものが出土している。



91A号住居からは、下図に示した加曽利E3式の土器と共に、No.142とした凸状となる下面に刺突文を施し、側面が明瞭に括れで、上端部の長いスタンブ形を呈するものが出土している。

164号住居からは、下図に示した勝坂3式の土器と共に、No.145とした赤彩の滑車形を呈する耳飾りが出土している。



他にも、35号住居からは加曽利E2式土器とNo.140、793号土坑からは加曽利E2式土器とNo.147の耳飾りが、それぞれ出土している。

富岡市中里下原遺跡

82号住居からは、右図に示した加曽利E2式の土器と共に、No.160とした表裏面が平坦で、括れ部中央がやや膨らみぎみとなる滑車形の耳飾りが出土している。



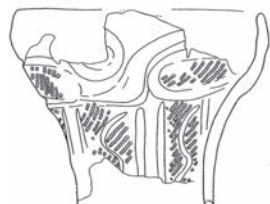
81号土坑からは、右図に示した加曽利E1式併行の土器と共に、No.161とした表面が凸状で、裏面が平坦となる滑車形の耳飾りが出土している。



他にも、215号土坑からは加曽利E2式土器と共に、No.162大型の滑車形を呈する耳飾りが出土している。

下仁田町下鎌田遺跡

220号住居からは、右図に示した加曽利E3式土器と共に、No.167とした表裏面が大きく凹状となる臼状を呈した耳飾りが出土している。



上記以外にも同地域では、高崎市上野国分僧寺・尼寺中間地域A区30号住居で加曽利E3式に伴いNo.73、同市三ツ子沢中遺跡18号住居で称名寺I式に伴いNo.107、安中市砂押Ⅲ遺跡J-68号住居で加曽利E3式に伴うNo.123の耳飾りが、それぞれ出土している。

< 東毛地域 >

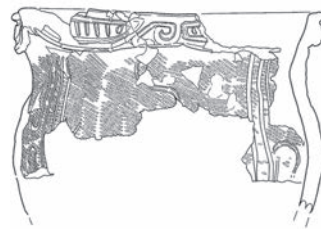
前橋市清里・長久保遺跡

13区5号住居からは、右図に示した加曽利E3式の土器と共に、No.176とした表裏面とも凸状で、表裏面に同様な渦巻文を施した耳飾りが出土している。



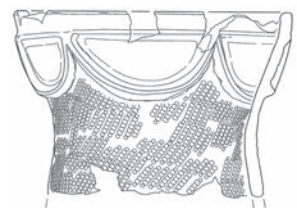
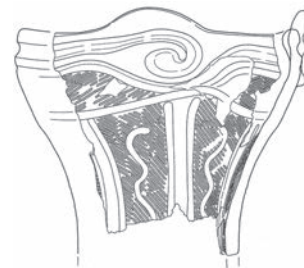
前橋市元総社蒼海遺跡群(116)遺跡

J-1号住居からは、下図に示した加曽利E3式の土器と共に、No.179とした凸状となる下面に渦巻文と周縁に刺突文し、上端部に厚みをもったスタンプ形を呈するものが出土している。



前橋市元総社蒼海遺跡群(123)遺跡

J-11号住居からは、下図に示した加曽利E3式の土器と共に、No.180とした表裏面が平坦で、表裏面とも同様な2方向の2重弧線文を施した耳飾りが出土している。



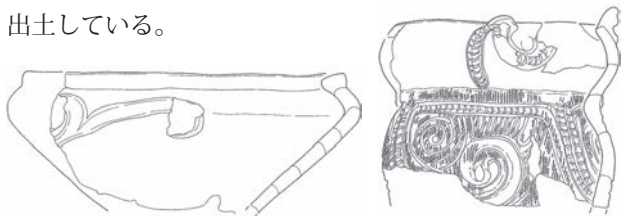
前橋市荒砥二之堰遺跡

27号住居からは、下図に示した称名寺Ⅱ式の土器と共に、No.181とした凸状となる表面の中央に貫通しない狭い凹み(孔状)をもった耳飾りが出土している。



伊勢崎市三和工業団地Ⅱ遺跡

76号住居からは、下図に示した勝坂3式の土器と共に、No.191とした滑車形の耳飾りが出土している。



他に、978号土坑からは勝坂3式土器と共にNo.192とした白状の耳飾り、1650号土坑では加曽利E3式土器と共にNo.193の滑車形の耳飾りが、それぞれ出土している。

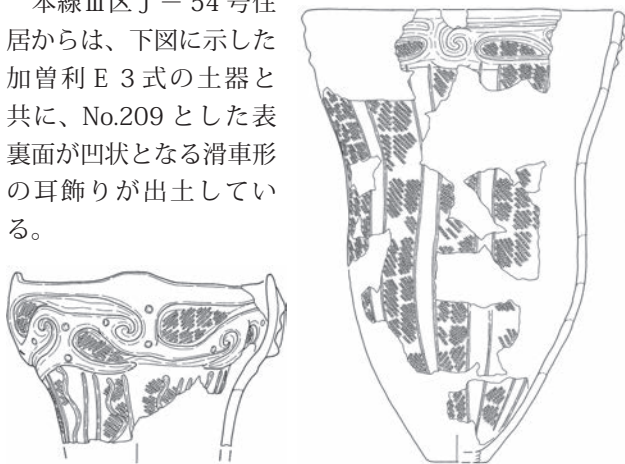
伊勢崎市下田遺跡

Ⅱ区20号住居からは、右図に示した称名寺Ⅰ式の土器と共に、No.203とした平坦な表面に渦巻文、凸状となる裏面に渦巻文と周縁に2重の刺突文を施した耳飾りが出土している。

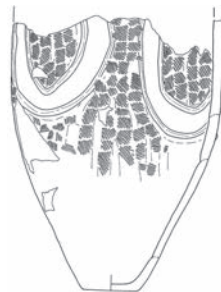


伊勢崎市天ヶ堤遺跡

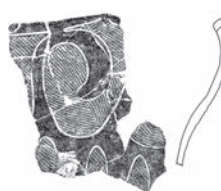
本線Ⅲ区J-54号住居からは、下図に示した加曽利E3式の土器と共に、No.209とした表裏面が凹状となる滑車形の耳飾りが出土している。



本線Ⅲ区J-56号住居からは、下図に示した称名寺Ⅰ式の土器と共に、No.210とした表裏面の狭い平坦部に刺突文と沈線文を施した大型の滑車形耳飾りが出土している。



Ⅳ・4区128号土坑からは、右図に示した加曽利E4式の土器と共に、No.212とした白状の耳飾りが出土している。



Ⅳ・4区1号不明遺構からは、右図に示した称名寺Ⅱ式の土器と共に、No.213・214とした大きさの異なる滑車形の耳飾り2点が出土している。



上記以外にも同地域では、前橋市茂木山神Ⅱ遺跡J9号住居で加曽利E1式併行の土器とNo.190、太田市細谷合ノ谷遺跡3区3号住居で称名寺Ⅱ式に伴いNo.215の滑車形耳飾りが、それぞれ出土している。

以上、時期の確定できる遺構に伴い出土した事例として、28遺跡54遺構から計63点を示すことができた。これらの中には、1遺構に複数個(2点あるいは3点)の出土を認められた例が7遺構存在していた。

3. 形状分類

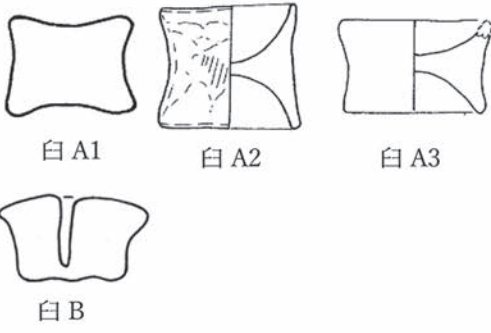
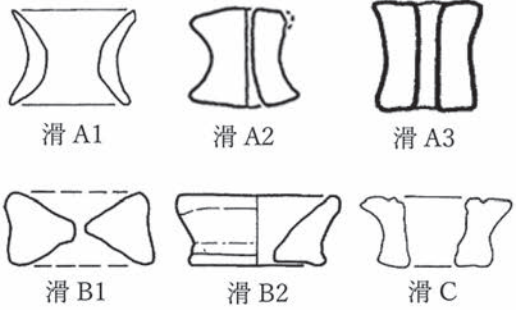
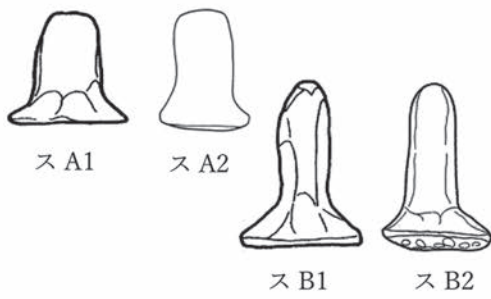
先述してきたように、中期から後期前葉にかけての耳飾りには様々な形状のものが存在する。円柱形で、側面が括れ、表面(上面)および裏面(下面)の状態によって鼓形と臼形に分かれ、さらに中央に孔をもつ滑車形。片面のみが円盤をもった茸状を呈する所謂スタンプ形と称される類。そして、四角柱状を呈したものも存在した(第1図参照)。

鼓形の形状を呈する耳飾りは、計103点を数え最も多い形状である。その分別では、鼓A1類とした表裏面が共に平坦なもの44点、鼓A2類とした表面が凸状で裏面が平坦となるもの26点、鼓A3類とした表裏面とも凸状となるもの33点であった。

臼形の形状を呈する耳飾りは、計15点と少ない。分別では、臼A1類とした表裏面が共に浅く(僅かに)凹状を呈するもの5点、臼A2類とした表裏面とも大きく凹

状を呈するもの4点、臼A3類とした表面が浅く裏面が大きく凹状を呈するもの3点、臼B類とした表面に中央に貫通しない孔を有するもの3点である。

滑車形の形状を呈する耳飾りは、計79点と鼓形に次いで多い形状である。その分別は、滑A1類とした器厚が薄く表裏面に平坦面をもたないもの32点、滑A2

鼓形	
臼形	
滑車形	
スタンプ形	
特異形	

第1図 土製耳飾り形状分類図

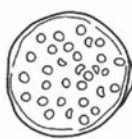
類とした中心孔が狭く表・裏面が凸状となるもの9点、滑A3類とした器厚が厚く表裏面に平坦面をもつもの28点、滑B1類とした中央に孔をもちながらも臼状を呈するもの7点、滑B2類とした中央に孔をもちながらも片面のみが大きく凹むもの1点、滑C類とした大型で表裏面の径の異なる例やその平坦面に文様をもつもの2点を確認した。

スタンプ形を呈する耳飾りでは、計16点と少ない。分別を見ると、スA1類とした下面が平坦で上端部の短いもの4点、スA2類とした下面が凸状となり上端部の短いもの8点、スB1類とした下面が平坦で上端部が長く窄まるもの2点、スB2類とした下面が凸状となり上端部が長く窄まるもの2点ということであった。

なお、四角柱状を呈したものは1点は特異形(特A)として扱った。

4. 施文文様

一方、耳飾りに施される文様についてみると、文様を施文する形状は鼓形やスタンプ形を主に、他の形状にも僅かにみられる。主な文様として先ず刺突があり、そして沈線による放射状、渦巻、弧線・曲線といった文様に集約され、それらのバラエティーおよび組み合わせによって構成されていることが明らかとなった。特に文様のバラエティーでは、弧線にその種類は圧倒的に多い。先ず弧線には一重、二重、三重があり、それらの弧線は対向する2方向の弧線、3方向弧線、4方向弧線、あるいはC字状となるような弧線とがある。また、渦巻と刺突を

		
刺突	放射状沈線	渦巻
		
2方向弧線	3方向弧線	4方向弧線
		
渦巻+刺突	弧線+刺突	沈線+刺突

第2図 土製耳飾りの主な文様分類と組み合わせ図

組合わせた文様、弧線と刺突を組合わせた文様、渦巻と弧線と刺突を組合わせた文様、さらに沈線と刺突を組合わせた文様が存在する（第2図参照）。

もちろん、無文の場合も多く、表裏両面が無文の例や片面(裏面)が無文となるものが確認できている。

これらの各文様を量的にみると、刺突のみを施すもの50点と最も多く、次いで渦巻のみを描いたもの34点で、渦巻と刺突を組合わせたものは5点あった。また、様々な種類の弧線の中でも弧線のみを描いたものは18点であるが、刺突等の文様と組合わせた場合では13点を確認できた。放射状沈線を施したものは1点のみで、端部への沈線と刺突を組合わせた文様のものも滑車形に限定されて2点と少なかった。

5. 時期的な傾向と特徴

ここでは、遺構出土の時期の確定できる耳飾りから、各形状および文様について、時期的な傾向と特徴を掻いてみる。

まず、鼓形であるが、総じて中期後半の加曽利E2式期から後期初頭の称名寺I式期までの間に多くみられ、分別した鼓A1～3類は共存する。また、この鼓形に施される文様をみると、各時期を通じて刺突や渦巻の文様が主体的に施文され、弧線は加曽利E3式期に多くみられるようである。特に、渦巻と刺突を組合わせた文様は加曽利E3式期から称名寺I式期にみられるのが特徴的である。

臼形は、数は少ないものの中期中葉の勝坂3式期以降に散漫に存在し、臼B類は称名寺II式期にも確認されている。また、臼A1類には弧線等の文様を施す例も存在する。

滑車形については、中期中葉の勝坂3式期以降、後期前葉の堀之内1式期までの間に万遍なく存在している。特に滑A1類と滑A3類は各時期を通じて存在し、滑A2類は加曽利E1～E3式期にみられる特徴が窺える。また、滑C類は中期にはみられず、後期初頭に存在することが確認できた。併せて、後期初頭に位置づけられるNo.210やNo.215からは、形状および施文文様・文様位置が、その後に続く耳飾りに想起することができよう。

スタンプ形は、スA類およびスB類ともに加曽利E2・E3式期に限定されるようで、施文される文様も刺突や渦巻、そして両者を組合わせた文様がほとんどである。なお、このスタンプ形は、その形状から耳飾りと一線を画する扱いもあるが、円盤状の部分を表側(前面)とした耳飾りとしての装着は十分に考え得る形状であること。また、大ききさ的な面でも耳飾りと径がさほど変わらず、施文される文様まで同じであることからすれば、耳飾り

として扱うことが妥当と考えられる。

特異形とした四角柱状を呈したもの(特A)は1点のみで、他に例を見ない。ここでは、円柱状を成す鼓形に対し、四角柱状の耳飾りの存在を認めることとして扱った。類例を待って、検討する必要がある。

6. おわりに

本稿では、群馬県内出土の縄文時代土製耳飾りを対象に、中期から後期前葉までの資料計215点を集成し、遺構内出土土器からの時期の確認。形状分類として、鼓形・臼形・滑車形・スタンプ形・特異形に大別し、さらに計18類に細別した。併せて、耳飾りに施文される文様についても、刺突、そして沈線による放射状、渦巻、弧線・曲線等の文様に集約され、それらのバリエーションおよび組合わせによって構成されていることが解った。また、各形状の耳飾りについて、その時期的な位置づけと文様を絡めた特徴が垣間見えてきた。そうした中、先述の特異形とした新たな形状のものについて、周囲の類例と比較せざるを得ないことが明らかとなった。

時期の確認できた耳飾りからは、最も古くは勝坂3式期に臼形と滑車形のものが少数みられ、両形状はその後の後期にまで続く。集成資料の中で最も数の多かった鼓形は、加曽利E2式期以降にみられるが、そのピークは加曽利E2・3式期にある。また、スタンプ形は、加曽利E2・3式期に限定される状況で興味深い。この鼓形とスタンプ形に施文される文様は、刺突や渦巻の文様が主体となり、弧線は時期を限った鼓形に多く、渦巻と刺突を組合わせた文様は加曽利E3式期以降であることも解った。

今後、こうした群馬県内の状況を周辺地域と比較することによって、地域性を含めたその差異を浮き彫りにすることができよう。

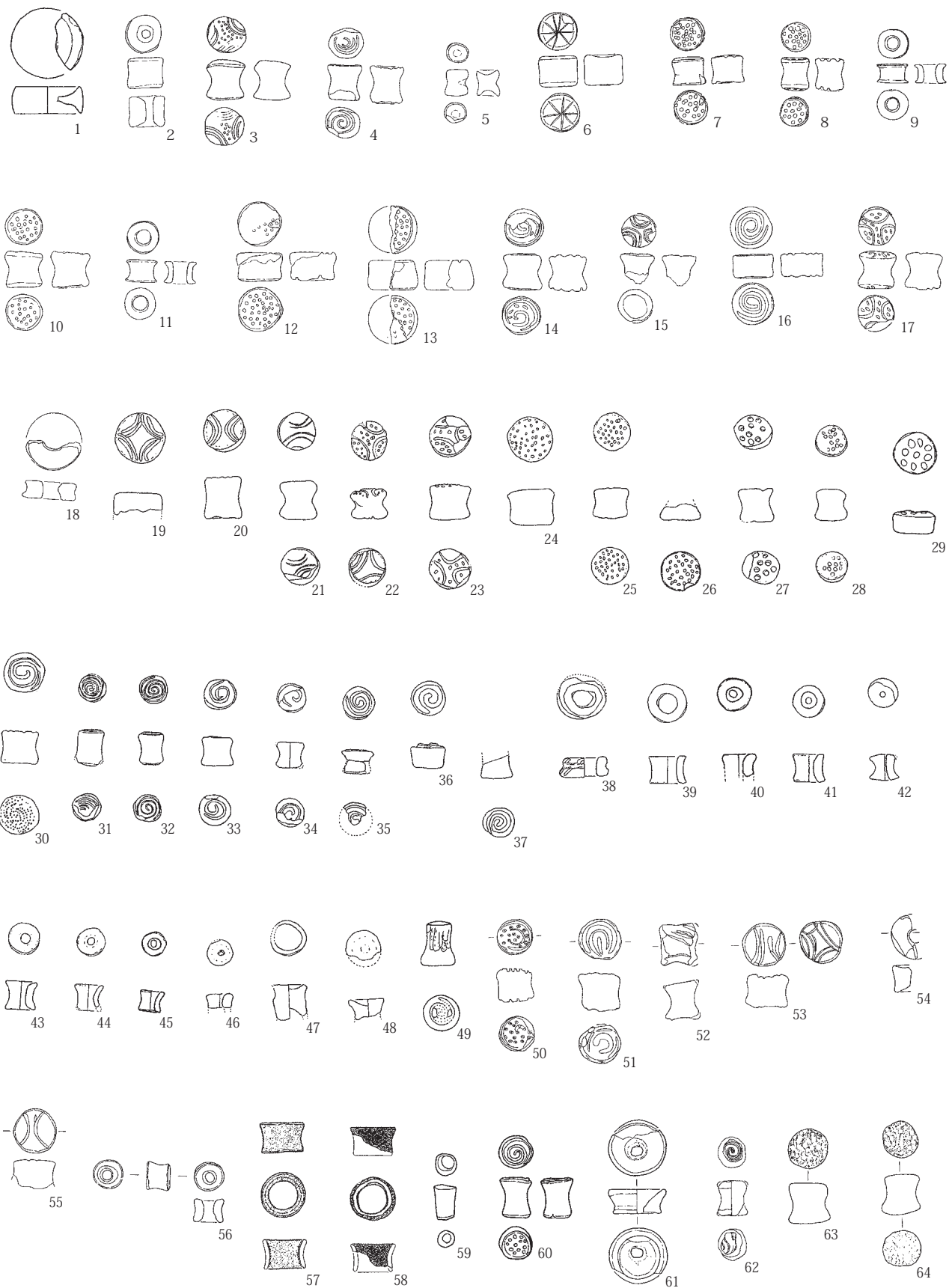
他方、別な視点からすれば、今回の集成で分かったことに、1遺構内から複数個の耳飾りの出土例もあり、耳飾りへの基本的な問題として、その装着数ないし保有数といったことも今後の検討課題となろう。その意味でも、十二前遺跡での耳飾りの出土事例は、堀之内1式期の装着事例として注視しておきたい。さらには、前代の所謂「玦状耳飾り」とは異なる、土製耳飾りの初現期の耳飾りが群馬県内に存在し得るのか、という点も今後の課題となろう。

さて、今回に続く後期中葉以降の耳飾りについては、その集成も含め、現在、精力的に進めている。

なお、引用・参考文献については、紙面の都合から割愛することとした。

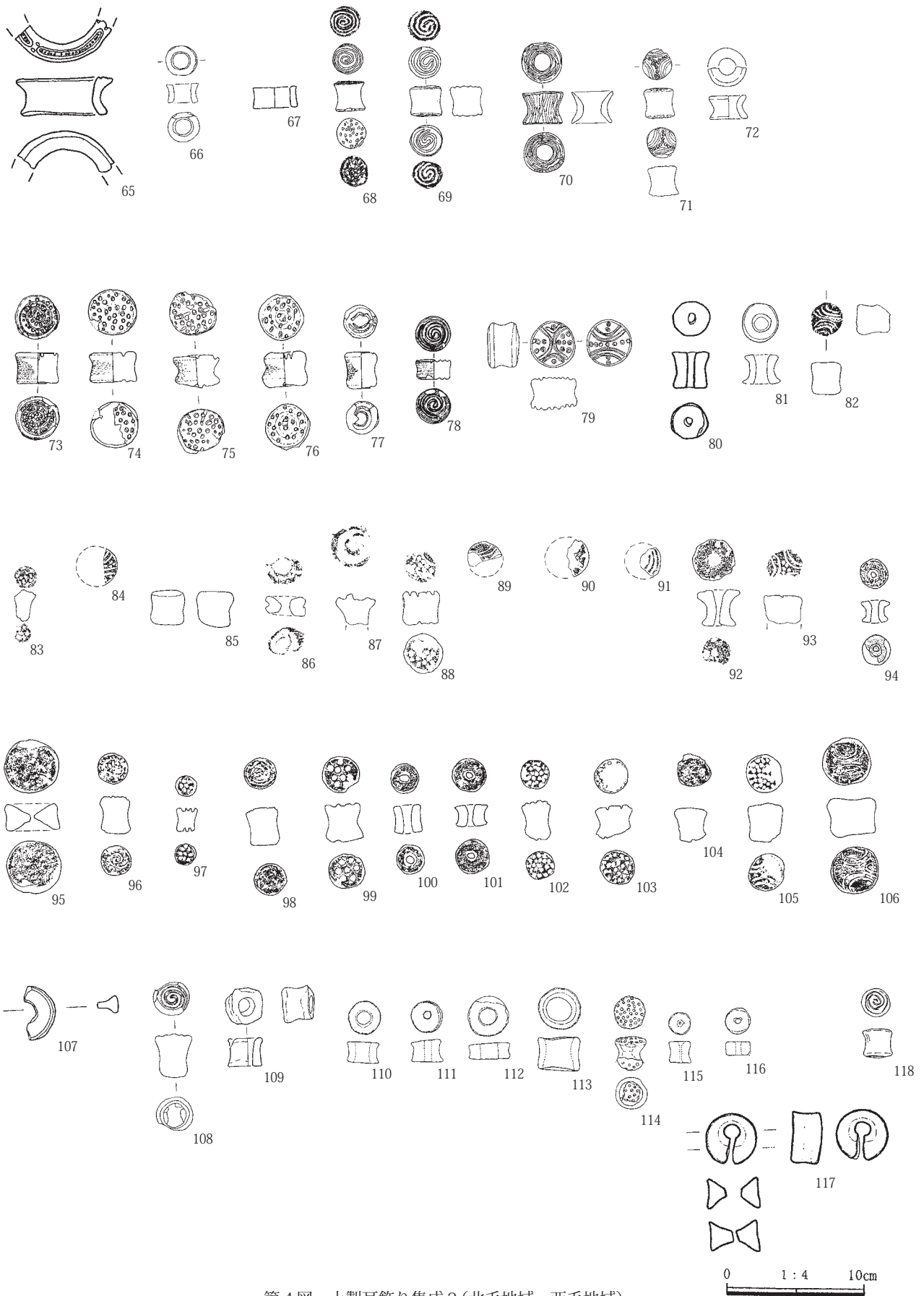
資料出典文献

- 1 『空沢遺跡(第3次)』1982 渋川市教育委員会
- 2 『下遠原遺跡A・C区』2008 渋川市教育委員会
- 3 『道訓前遺跡』2001 北橘村教育委員会
- 4 『小室高田遺跡I - ii』2005 北橘村教育委員会
- 5 『小室高田遺跡I - i・II』2006 北橘村教育委員会
- 6 『前中後遺跡I・II・III・IV区』2010 渋川市教育委員会
- 7 『三原田遺跡 第3巻』1992 群馬県企業局
- 8 『中郷遺跡(2)』2010 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 9 『十二前遺跡II』2015 山下工業株式会社
- 10 『沼南遺跡』1999 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 11 『長久保大畑遺跡 新田入口遺跡』2000 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 12 『上組北部遺跡群』2009 みなかみ町教育委員会
- 13 『布施上原遺跡』2000 新治村遺跡調査会
- 14 『上郷岡原遺跡(3)』2009 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 15 『立馬II遺跡』2006 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 16 『楡木II遺跡(2)』2009 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 17 『長野原一本松遺跡(5)』2009 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 18 『長野原一本松遺跡(6)』2013 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 19 『長野原一本松遺跡(7)』2014 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 20 『横壁中村遺跡(8)』2009 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 21 『上野国分僧寺・尼寺中間地域』1986 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 22 『棟高西弥三郎街道遺跡』2019 株式会社測研(文化財研究室)
- 23 『白川笹塚遺跡 白岩浦久保遺跡 白岩民部遺跡』2000 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 24 『白川傘松遺跡』1997 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 25 『三ツ子沢中遺跡』2000 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 26 『高浜広神遺跡』1999 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 27 『E14 保美地区遺跡群』1994 藤岡市教育委員会
- 28 『北山遺跡』『群馬県史 資料編1』1988
- 29 『東上秋間遺跡群発掘調査報告書』2003 安中市教育委員会
- 30 『中野地区遺跡群2』2004 安中市教育委員会
- 31 『天神林遺跡・砂押Ⅲ遺跡・大道南Ⅱ遺跡・向原Ⅱ遺跡』2004 安中市教育委員会
- 32 『中野谷松原遺跡』1998 安中市教育委員会
- 33 『落合Ⅱ遺跡2・平塚遺跡2・三本木Ⅱ遺跡2・三本木Ⅲ遺跡2』2016 安中市教育委員会
- 34 『小日向地区遺跡群』2010 安中市教育委員会
- 35 『西横野東部地区遺跡群』2014 安中市教育委員会
- 36 『西横野中部地区遺跡群』2017 安中市教育委員会
- 37 『新堀東源ヶ原遺跡』1997 松井田町遺跡調査会
- 38 『中里下原遺跡Ⅱ・中里中原遺跡Ⅱ(縄文時代編) 中里宮平遺跡・中里原遺跡・二本杉遺跡 松義中部地区遺跡群Ⅳ』2017 富岡市教育委員会
- 39 『杣瀬Ⅰ遺跡 杣瀬Ⅱ遺跡 杣瀬Ⅲ遺跡』1994 下仁田町遺跡調査会
- 40 『下鎌田遺跡』1997 下仁田町遺跡調査会
- 41 『清里・長久保遺跡』1986 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 42 『元総社蒼海遺跡群(116) 元総社蒼海遺跡群(123)』2019 前橋市教育委員会
- 43 『荒砥二之堰遺跡』1985 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 44 『堀越並木(A・C地点)遺跡』2004 大胡町教育委員会
- 45 『堀越並木D地点遺跡 堀越内諏訪遺跡』2006 大胡町教育委員会
- 46 『天神遺跡』『群馬県史 資料編1』1988
- 47 『上ノ山遺跡』1992 大胡町教育委員会
- 48 『茂木山神Ⅱ遺跡』2001 大胡町教育委員会
- 49 『三和工業団地Ⅱ遺跡』2004 伊勢崎市教育委員会
- 50 『下元屋敷遺跡・下田遺跡(1)』2007 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 51 『下田遺跡(2)』2008 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 52 『天ヶ堤遺跡V』2006 伊勢崎市教育委員会
- 53 『天ヶ堤遺跡(1)』2007 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 54 『天ヶ堤遺跡(2)』2008 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 55 『福沢新田遺跡 細谷合ノ谷遺跡 細谷八幡遺跡』2007 群馬県埋蔵文化財調査事業団

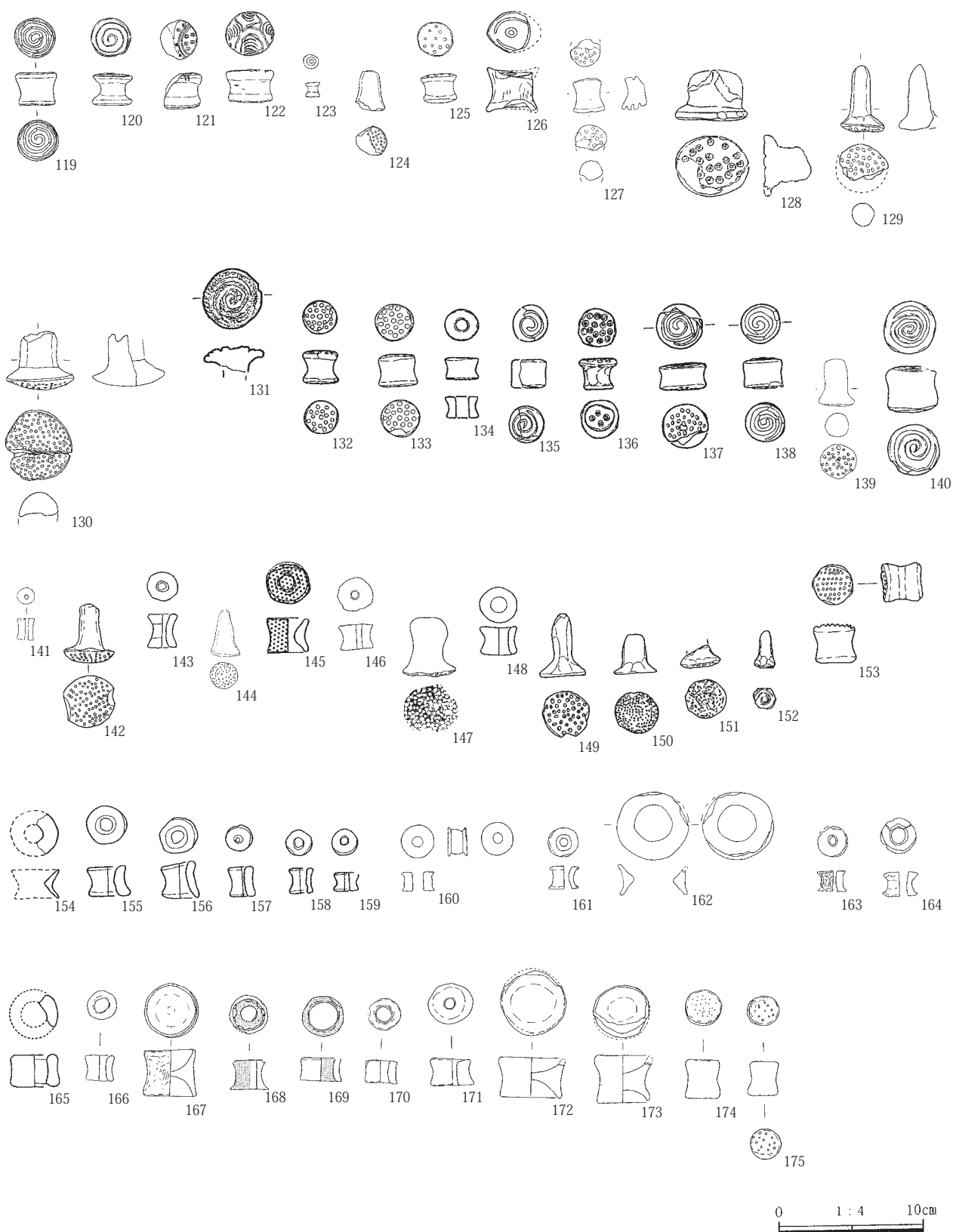


第3図 土製耳飾り集成1 (北毛地域)

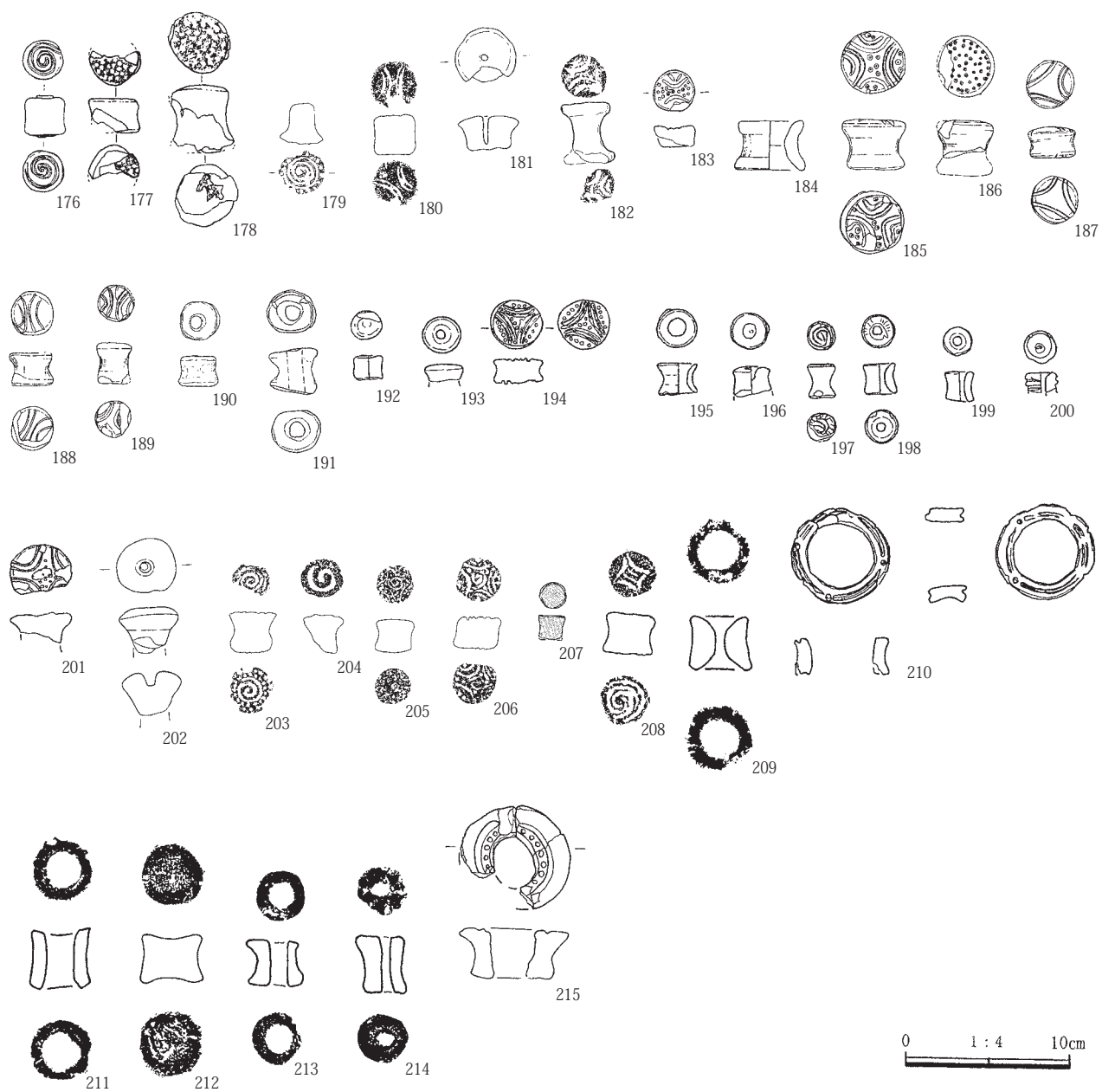
0 1 : 4 10cm



第4図 土製耳飾り集成2(北毛地域・西毛地域)



第5図 土製耳飾り集成3(西毛地域・東毛地域)



第6図 土製耳飾り集成4(東毛地域)

表 1 土製耳飾り集成表

	遺跡名	所在地	出土遺構	形態分類	計測値(cm)					特徴・文様	時期	出典文献
					外径	括れ径	内径	端部径	高さ			
1	空沢遺跡	渋川市行幸田	遺構外	滑B1	(4.5)	(4.9)			1.9	表裏面は凹状となり、側面はやや膨らむ。	中期後半	出典1
2	下遠原遺跡	渋川市北橘町真壁	C区J-12号住居	滑A1	2.6	2.4	0.5		2.1	表裏面は僅かに凹状。	中期後半	出典2
3	道訓前遺跡	渋川市北橘町上箱田	J-16号住居	鼓A2	2.8	2.0			2.9	表面は凸状で裏面はやや凸状。表裏面には同様の3方向の2重弧線文と刺突文。	中期後半	出典3
4			遺構外	鼓A1	2.4	1.9			2.5	表裏面は平坦。表裏面に同様の渦巻文。	中期中葉～中期後半	
5			遺構外	白A2	1.5	1.2			1.9	表裏面は凹状となる。	中期中葉～中期後半	
6	小室高田遺跡	渋川市北橘町小室	J-9号住居	鼓A1	2.8	2.7			2.2	表面はやや凹状で裏面は平坦。表裏面には同様な中心からの放射状沈線。	中期後半	出典4
7			J-9号住居	鼓A2	2.3	2.0			2.0	表面はやや凸状で裏面は平坦。表裏面には同様な刺突文。	中期後半	
8			J-29号住居	鼓A1	2.0	1.6			2.4	表裏面はやや凸状。表裏面とも同様な刺突文。	中期後半	
9			J-29号住居	滑A3	2.2	1.7	0.8		1.5	表裏面は平坦。	中期後半	出典5
10			J-3号住居	鼓A1	2.7	2.1			2.5	表裏面は平坦。表裏面とも同様な刺突文。	中期後半	
11			J-8号住居	滑A3	2.2	1.6	0.9		1.6	表裏面は平坦。	中期後半	
12			J-16号住居	鼓A1	3.1	2.9			2.0	表裏面は平坦。表裏面とも同様な刺突文。	中期後半	
13			J-16号住居	鼓A1	3.4	－			2.1	表裏面は平坦。表裏面とも同様な渦巻文。	中期後半	
14			J-16号住居	鼓A3	2.7	2.1			2.6	表裏面はやや凸状。表裏面とも同様な渦巻文と刺突文。	中期後半	
15			J-17号住居	鼓A2	2.4	1.7			－	表面はやや凸状で、3方向に2重の弧線文。	中期後半	
16			J-17号住居	鼓A1	2.9	2.8			1.7	表裏面は平坦。表裏面とも同様な渦巻文。	中期後半	出典6
17			J-17号住居	鼓A3	2.6	1.9			2.6	表面は凸状で裏面はやや凸状。表裏面とも同様に3方向の弧線文と刺突文。	中期後半	
18	前中後遺跡	渋川市北橘町八崎	遺構外	滑A3	(4.0)	3.4	1.1		1.2	表裏面は平坦。	中期後半～後期初葉	出典6
19	三原田遺跡	渋川市赤城町三原田	遺構外	鼓A1	3.6	－			－	表面は平坦で、4方向に2重の弧線文。	中期後半～後期初頭	出典7
20			遺構外	鼓A1	2.8	2.2			3.0	表裏面は平坦。表面に2方向の2重の弧線文。	中期後半～後期初頭	
21			3-7住居	鼓A1	2.6	1.8			2.8	表裏面は概ね平坦。表裏面とも同様に2方向の2重の弧線文。	中期後半	
22			遺構外	鼓A2	2.7	1.9			2.2	表面は凸状で裏面は平坦。表面は3方向の弧線文と刺突文。裏面は3方向の弧線文。	中期後半～後期初頭	
23			遺構外	鼓A2	3.0	2.4			2.5	表面はやや凸状で裏面は平坦。表裏面とも同様に3方向の弧線文と刺突文。	中期後半～後期初頭	
24			遺構外	鼓A2	3.0	2.9			3.5	表面はやや凸状で裏面は平坦。表面に刺突文。	中期後半～後期初頭	
25			遺構外	鼓A3	2.4	2.1			2.1	表裏面はやや凸状。表裏面とも同様な刺突文。	中期後半～後期初頭	
26			2-2住居	鼓A1	2.9	－			－	裏面は平坦で、刺突文。	後期初頭	
27			6-C' 19(ハ) - 1pit	鼓A1	2.4	1.8			2.3	表裏面は平坦。表裏面とも同様な刺突文。	中期後半	
28			遺構外	鼓A3	2.1	1.7			2.2	表面は凸状で裏面はやや凸状。表裏面とも同様な刺突文。	中期後半～後期初頭	
29			6-32住居	鼓A2	3.0	2.8			1.6	表面は凸状で裏面は平坦。表面に刺突文。	中期後半～後期初頭	
30			遺構外	鼓A1	2.6	2.2			2.3	表裏面は平坦。表面は渦巻文。裏面は渦巻状の刺突文。	中期後半～後期初頭	
31			遺構外	鼓A3	1.9	1.7			2.6	表裏面は凸状。表裏面とも同様な渦巻文。	中期後半～後期初頭	
32			遺構外	鼓A3	1.8	1.4			2.3	表裏面は凸状。表裏面とも同様な渦巻文。	中期後半～後期初頭	
33			遺構外	鼓A2	2.1	1.8			2.1	表面はやや凸状で裏面は平坦。表裏面とも同様な渦巻文。	中期後半～後期初頭	
34			遺構外	鼓A1	2.0	1.5			1.8	表裏面は平坦。表裏面とも同様な渦巻文。	中期後半～後期初頭	
35			遺構外	鼓A2	(2.3)	1.6			1.7	表面はやや凸状で裏面は平坦。表裏面とも同様な渦巻文。	中期後半～後期初頭	
36			遺構外	鼓A2	2.4	2.2			1.7	表面は凸状で裏面は平坦。表面に渦巻文。	中期後半～後期初頭	
37			遺構外	鼓A1	2.2	1.8			－	裏面は平坦で、渦巻文。	中期後半～後期初頭	
38			3-V22-Bpit	滑A1	3.4	2.9	1.4		1.4	側面に縄文を施す。	中期後半～後期初頭	
39			遺構外	滑A3	2.6	2.2	1.1		2.0	表裏面は平坦。赤彩。	中期後半～後期初頭	
40			1-22住居	滑A1	2.4	1.9	0.5		－	孔は狭い。	中期後半～後期初頭	
41			8-6住居	滑A1	2.2	1.8	0.4		2.1	孔は狭い。	中期後半～後期初頭	

	遺跡名	所在地	出土遺構	形態分類	計測値(cm)					特徴・文様	時期	出典文献
					外径	括れ径	内径	端部径	高さ			
42			遺構外	滑A2	2.1	1.2	0.3		1.9	表裏面はやや凸状で、孔は極めて狭い。	中期後半～後期初頭	
43			遺構外	滑A1	2.2	1.7	0.5		2.0	表裏面は僅かに凹状。	中期後半～後期初頭	
44			1-K10-3pit	滑A1	2.0	1.4	0.6		2.0		中期後半～後期初頭	
45			1-V82-Apit	滑A1	1.8	1.3	0.5		1.5		中期後半～後期初頭	
46			遺構外	滑A1	1.8	1.5	0.2		-	孔は極めて狭い。	中期後半～後期初頭	
47			遺構外	白A3	2.5	2.1			2.7	表面はやや凹状で、裏面は大きく凹状。	中期後半～後期初頭	
48			遺構外	白A2	2.6	1.8			-	表裏面は凹状となる。	中期後半～後期初頭	
49			遺構外	スA1	2.6	1.6		1.8	3.1	下面は平坦で、渦巻文。側面は僅かに括れ、上端は厚みをもつ。	中期後半～後期初頭	
50	中郷遺跡	渋川市中郷	11区遺構外	鼓A1	2.5	2.3			2.4	表裏面はやや凸状。表裏面とも同様にC字状の弧線文と刺突文。	中期後半	出典8
51			11区遺構外	鼓A3	3.0	2.5			2.7	表裏面はやや凸状。表裏面とも同様なC字状の弧線文。	中期後半	
52			11区遺構外	特A	(2.5)	1.6			2.7	形状はサイコロ状を呈し、表面は平坦で、裏面は僅かに凹状。表面に沈線。	中期後半	
53			11区遺構外	白A1	3.0	2.6			2.3	表裏面はやや凹状。表面に2方向の2重弧線文、裏面に4方向の弧線文。	中期後半	
54			12区遺構外	白A3	(3.3)	-			1.9	表面はやや凹状で、裏面は大きく凹状。	中期後半	
55			12区遺構外	鼓A2	3.0	2.7			-	表面は凸状で、2方向の弧線文。	中期後半	
56			12区遺構外	滑A3	2.0	1.8	0.7		1.6	表裏面は平坦。	中期後半	
57	十二前遺跡	榛東村新井	SK-328(土坑)	滑A1	3.0	2.8	2.0		2.0	薄く丁寧な作り。内外面に赤彩。	後期前葉	出典9
58			SK-328(土坑)	滑A1	3.0	2.8	2.0		2.0	薄く丁寧な作り。内外面に赤彩。	後期前葉	
59	沼南遺跡	吉岡町大久保	遺構外	滑A1	1.6～1.2	1.3	0.6		2.4	形状は管玉状を呈すが、側面が僅かに括れる。	中期後半	出典10
60			遺構外	鼓A2	2.2	1.5			2.8	表面は凸状で、裏面は平坦。表面は渦巻文。裏面は刺突文。	中期後半	
61	長久保大畑遺跡	吉岡町大久保	遺構外	滑B2	4.0～3.4	3.1	0.8		1.7	表面は大きく凹状で、裏面は僅かに凹状。	中期	出典11
62	深沢B遺跡	みなかみ町月夜野	遺構外	鼓A2	(2.2)	1.6			2.5	表面はやや凸状で渦巻文、裏面に曲線文。	中期後半～後期前葉	出典12
63	布施上原遺跡	みなかみ町布施	遺構外	鼓A1	2.7～2.9	2.5			2.8	表面は平坦で、裏面はやや凸状。表面に刺突文。	中期後半～後期前葉	出典13
64			遺構外	鼓A3	2.5～2.8	2.1			2.8	表裏面は凸状。表面に2方向の弧線文と刺突文。裏面に3方向の2重弧線文と刺突文。	中期後半～後期前葉	
65	上岡岡原遺跡	東吾妻町三島	IV区436号土坑	滑C	7.2～6.6	5.6	4.7		2.8	大型。表面の平坦面上に、細沈線で長楕円区画と細刺突による文様。	後期初頭	出典14
66	立馬Ⅱ遺跡	長野原町林	遺構外	滑A3	2.2	1.9	1.2		1.3	表面は平坦。	中期	出典15
67	楡木Ⅱ遺跡	長野原町林	遺構外	滑A1	3.1	3.0	2.2		1.5	内面に赤彩。	中期後半～後期前葉	出典16
68	長野原一本松遺跡	長野原町長野原	遺構外	鼓A3	2.1	1.7			2.3	表裏面はやや凸状。表面は渦巻文。裏面は刺突文。	中期後半	出典17
69			5-156号住居	鼓A3	2.2	2.0			2.3	表裏面はやや凸状。表裏面とも同様な入組み状の渦巻文。	中期後半	出典18
70			遺構外	滑A1	2.9	2.2	1.3		2.4	薄く丁寧な研磨。	中期後半～後期前葉	
71			遺構外	鼓A3	2.1	1.8			2.2	表裏面はやや凸状。表裏面とも同様に3方向の2重弧線文と刺突文。	中期後半	出典19
72	横壁中村遺跡	長野原町横壁	28区18号住居	滑A1	2.8	2.0	1.2		1.7	薄く丁寧な作り。	後期初頭	出典20
73	上野国分僧寺・尼寺中間地域	高崎市東国分町	A区第30号住居	鼓A1	3.1	2.8			2.2	表裏面は平坦。表裏面とも同様の渦巻文と刺突文。	中期後半	出典21
74			遺構外	鼓A1	3.4	3.0			2.2	表裏面は平坦。表裏面とも同様に刺突文。	中期後半	
75			遺構外	鼓A3	3.4	2.6			2.4	表裏面はやや凸状。表裏面とも同様に刺突文。	中期後半	
76			遺構外	鼓A1	3.2	2.8			2.5	表裏面は僅かに凹状。表裏面とも同様に刺突文。	中期後半	
77			遺構外	鼓A1	2.4	2.0			2.6	表裏面は概ね平坦。表裏面とも同様な円状の弧線。	中期後半	
78			遺構外	鼓A3	2.6	2.4			1.5	表裏面はやや凸状。表裏面とも同様な渦巻文。	中期後半	
79	棟高西弥三郎街道遺跡	高崎市棟高町	97号土坑	鼓A3	3.4	2.9			2.3	表裏面はやや凸状。表面は4方向の弧線文と刺突文。裏面に2方向の2重弧線文と刺突文。	中期後半	出典22
80	白川笹塚遺跡	高崎市箕郷町白川	97号土坑	滑A3	2.7	2.1	0.5		2.7	表裏面は平坦。	中期後半～後期初頭	出典23
81	白川傘松遺跡	高崎市箕郷町白川	4号住居	滑A2	2.5	1.7	0.8		2.2	表裏面はやや凸状。	中期後半	出典24
82			14号住居	鼓A1	2.2	1.9			2.4	表裏面は概ね平坦。表面に2方向の重複する弧線文。	中期後半	

	遺跡名	所在地	出土遺構	形態分類	計測値(cm)					特徴・文様	時期	出典文献
					外径	括れ径	内径	端部径	高さ			
83			23号住居	鼓A3	(2.2)	1.1			2.3	表裏面は凸状。表裏面とも同様に刺突文。	中期後半	
84			23号住居	鼓A	(3.0)	－			－	片面に2方向の2重弧線文と刺突文。	中期後半	
85			72号住居	鼓A1	2.7	2.3			2.5	表裏面は概ね平坦。	中期後半	
86			遺構外	滑A1	2.9	2.5	1.1		1.4	表裏面はやや凹状。	中期後半	
87			遺構外	鼓A2	2.9	1.6			－	表面は凸状となり、太い渦巻文。	中期後半	
88			遺構外	鼓A1	2.7	2.5			2.4	表裏面は平坦。表裏面とも同様に刺突文。	中期後半	
89			遺構外	鼓A	(2.6)	－			－	片面に2方向の2重弧線文。	中期後半	
90			遺構外	鼓A	(3.0)	－			－		中期後半	
91			遺構外	鼓A	(2.8)	－			－	2重の弧状沈線(渦巻文か)。	中期後半	
92			遺構外	滑A2	3.1～2.5	1.6	0.4		2.7	表面はやや凸状で径が大きく、裏面は平坦で径が小さい。	中期後半	
93			遺構外	鼓A1	2.8	2.5			－	表面は概ね平坦で、3方向の2重弧線文と刺突文。	中期後半	
94			遺構外	滑A2	2.2～1.9	1.3	0.5		1.7	表裏面はやや凸状となり、表面の径がやや大きい。	中期後半	
95			遺構外	滑B1	3.9	3.7	0.3		1.9	表裏面は大きく凹状となり、孔は小さい。	中期後半	
96			遺構外	鼓A3	2.2	1.8			2.7	表裏面はやや凸状。表裏面とも同様な渦巻文。	中期後半	
97			遺構外	鼓A1	1.6	1.2			1.7	表裏面は平坦。表裏面とも同様に刺突文。	中期後半	
98			遺構外	鼓A2	2.3	2.0			2.8	表面は凸状で、裏面は平坦。表面は渦巻文。	中期後半	
99			遺構外	鼓A1	2.6	2.0			2.8	表裏面は概ね平坦。表裏面とも同様に刺突文。	中期後半	
100			遺構外	滑A3	2.0	1.8	0.6		2.0	表裏面とも僅かに凸状。	中期後半	
101			遺構外	滑A2	2.5	1.9	0.4		1.6	表裏面とも僅かに凸状。	中期後半	
102			遺構外	鼓A3	2.1	1.6			2.9	表裏面はやや凸状。表裏面とも同様な刺突文。	中期後半	
103			遺構外	鼓A3	2.7	2.1			2.4	表裏面はやや凸状。表裏面とも同様な刺突文。	中期後半	
104			遺構外	鼓A3	2.4	1.7			－	表裏面ともやや凸状。	中期後半	
105			遺構外	鼓A3	2.6	2.3			2.8	表面は凸状で、裏面は平坦。表面は刺突文。裏面は2ないし3方向の2重弧線文。	中期後半	
106			遺構外	白A1	3.6	3.3			2.8	表裏面はやや凹状。表裏面とも同様な2方向の2重弧線文。	中期後半	
107	三ツ子沢中遺跡	高崎市三ツ子沢町	18号住居	滑B1	(4.2)	－	(1.4)		1.2	表裏面は大きく凹状となり、側面は膨らみきみ。	後期初頭	出典25
108	高浜広神遺跡	高崎市高浜町	遺構外	スA2	2.7～2.5	2.4			3.1	表裏面はやや凸状。表面に渦巻文。	中期後半	出典26
109	平塚台遺跡	藤岡市保美	遺構外	滑A3	2.4	2.1	0.5		2.0	表裏面は平坦。	中期後半～後期初頭	出典27
110	北山遺跡	藤岡市藤岡	遺構外	滑A3	2.3	2.0	0.9		1.5	表裏面は平坦。	中期後半～後期前葉	出典28
111			遺構外	滑A3	2.3	1.8	0.5		1.6	表裏面は平坦となり、孔は極めて狭い。	中期後半～後期前葉	
112			遺構外	滑A3	3.0	2.7	1.2		1.1	表裏面は平坦。	中期後半～後期前葉	
113			遺構外	滑A1	1.7	1.3	0.2		1.5	表裏面は平坦。	中期後半～後期前葉	
114			遺構外	鼓A3	2.2	1.5			2.5	表裏面とも凸状か。表裏面とも同様な刺突文。	中期後半～後期前葉	
115			遺構外	滑A3	1.8	1.7	0.4		0.9	表裏面は平坦。	中期後半～後期前葉	
116			遺構外	滑A3	3.1	2.9	1.8		2.3	表裏面の端部がやや歪む。	中期後半～後期前葉	
117	野村遺跡	安中市東上秋間	遺構外	滑B1	3.7	3.6	1.1		2.1	表裏面は大きく凹状。側面はやや括れ、孔は片側に寄る。	中期後半～後期初頭	出典29
118	北原Ⅱ遺跡	安中市東上秋間	遺構外	鼓A3	2.1	1.8			2.2	表裏面は凸状。表面に渦巻文。	中期後半	
119	中島Ⅰ・Ⅱ遺跡	安中市中野谷	J-9号住居	鼓A1	2.9～2.6	2.3			2.4	表裏面は平坦。表裏面とも同様な渦巻文。	中期後半～後期初頭	出典30
120	大道南Ⅱ遺跡	安中市中野谷	J-3号住居	鼓A2	2.8	1.7			2.4	表面は凸状で、裏面は平坦。表面に渦巻文。	中期後半	出典31
121			J-6号住居	鼓A3	2.6	2.3			2.5	表面は凸状で裏面はやや凸状。表面に2方向の2重弧線文と刺突文。	中期後半	
122			遺構外	鼓A3	3.3	2.7			2.4	表裏面はやや凸状。表面に4方向の重弧線文。	中期後半	
123	砂押Ⅲ遺跡	安中市中野谷	J-68号住居	滑A3	1.0	0.7	0.3		1.0	表裏面は平坦で、孔は狭い。	中期後半	
124			P-41	スA1	2.3	1.6		1.4	2.9	下面は平坦で、刺突文。側面の括れは不明瞭で、上端は厚みをもってやや太い。	中期後半	
125			遺構外	鼓A3	2.5	1.9			2.1	表裏面は凸状。表面に刺突文。	中期後半	
126	中野谷松原遺跡	安中市中野谷	遺構外	滑B1	3.7	2.8	0.5		3.3	表裏面は大きく凹状。側面はやや括れ、孔は狭い。表面に円状の沈線文。	中期後半～後期初頭	出典32
127	三本木Ⅱ遺跡	安中市鷺宮	遺構外	鼓A3	2.2	1.7			2.4	表面は凸状で、裏面はやや凸状。表裏面とも同様な刺突文。	中期後半か	出典33
128	小日向田中西遺跡	安中市松井田町小日向	遺構外	スA1	6.2	4.6			－	大型で、平坦な下面には刺突文。側面の括れは明瞭であるが、上端は欠損。	中期	出典34

	遺跡名	所在地	出土遺構	形態分類	計測値(cm)					特徴・文様	時期	出典文献
					外径	括れ径	内径	端部径	高さ			
129	人見枝谷津遺跡	安中市松井田町人見	遺構外	スB2	(3.7)	1.4	1.2		4.7	凸状となる下面には刺突文。側面の括れは細く明瞭で、上部は長く上端は尖る。	中期後半	出典35
130	人見東原Ⅱ遺跡	安中市松井田町人見	J-8・9号住居	スA2	4.7	2.5			－	凸状となる下面には刺突文。側面の括れは明瞭であるが、上端は欠損。	中期後半	
131	人見東中原遺跡	安中市松井田町人見	J-5号住居	スA2	4.2	2.0			－	凸状となる下面には渦巻文と細い刺突文。側面の括れは明瞭であるが、上端は欠損。	中期後半	
132	二軒在家原田遺跡	安中市松井田町二軒在家	J-27b号住居	鼓A3	2.5	1.8			2.4	表面は凸状で、裏面はやや凸状。表裏面とも同様な刺突文。	中期後半	出典36
133			J-47号住居	鼓A2	2.7	2.3			2.3	表面は凸状で、裏面は平坦。表裏面とも同様な刺突文。	中期後半	
134			D-25号土坑	滑A3	2.3	1.9	0.9		1.5	表裏面はほぼ平坦。	中期後半	
135			遺構外	鼓A1	2.6	2.4			2.0	表裏面は平坦。表裏面とも同様な渦巻文。	中期後半	
136	二軒在家原田Ⅱ遺跡	安中市松井田町二軒在家	J-17号住居	鼓A2	2.8～2.3	1.8			2.2	表面は凸状で、裏面は平坦。表裏面とも同様な刺突文。	中期後半	
137			J-27号住居	鼓A3	2.3	2.0			1.9	表裏面はやや凸状。表面は刺突文で、裏面に渦巻文。	中期後半	
138			M-1号溝	鼓A2	2.7	2.5			2.2	表面は凸状で、裏面は平坦。表裏面とも同様な渦巻文。	中期後半	
139	新堀東源ヶ原遺跡	安中市松井田町新堀	9号住居	スA2	2.5	1.5		1.6	3.3	やや凸状となる下面には刺突文。側面の括れは明瞭で、上部はやや膨らむ。	中期後半	出典37
140			35号住居	鼓A3	3.5	3.2			3.2	表裏面は凸状。表裏面とも同様な渦巻文。	中期後半	
141			77号住居	滑A3	1.2	1.0	0.2		1.5	小型。表裏面は平坦で、孔は狭い。	中期前半～ 中期中葉	
142			91A号住居	スA2	3.6	1.5		1.4	4.2	凸状となる下面には刺突文。側面の括れは明瞭で、上部は長い。	中期後半	
143			104号住居	滑A1	2.0	1.4	0.5		2.4		中期後半	
144			163号住居	スB2	1.9	1.3		0.7	3.3	凸状となる下面には刺突文。側面の括れは不明瞭で、上部は長く徐々に窄まる。	中期後半	
145			164号住居	滑A1	2.8	2.4	1.0		2.4	内面赤彩。	中期前半～ 中期中葉	
146			621号土坑	滑A3	1.7	1.4	0.3		1.3	表面はやや凸状で、裏面は平坦。孔は狭い。	中期前半～ 中期中葉	
147			793号土坑	スA2	3.7	2.1		2.5	4.2	やや凸状となる下面には刺突文。側面の括れは明瞭で、上部はやや膨らみ長い。	中期後半	
148			1004号土坑	滑A1	2.5	2.0	1.1		1.9		中期	
149			遺構外	スB1	3.2	1.2		1.4	4.4	平坦な下面には刺突文。側面の括れは明瞭で、上部は長くやや膨らみ、上端は尖る。	中期	
150			遺構外	スA1	3.0	1.7		1.5	2.7	平坦な下面には刺突文。側面の括れは明瞭で、上部は厚みをもつ。	中期	
151			遺構外	スA2	2.8	－		－	－	凸状となる下面には刺突文。側面の括れは明瞭であるが、上端は欠損。	中期	
152			遺構外	スB1	(1.7)	1.0		0.9	2.6	小型で、平坦な下面には渦巻文。側面の括れは明瞭で、上端は尖る。	中期	
153			遺構外	鼓A2	2.9	2.4			2.7	表面は凸状で、裏面は平坦。表面に刺突文。	中期	
154			遺構外	滑B1	(3.3)	－	(1.3)		2.0	表裏面は大きく凹状。薄く、丁寧な作り。	中期	
155			遺構外	滑A1	2.9	2.3	0.8		2.1		中期	
156			遺構外	滑A1	2.6	2.0	0.9		2.6		中期	
157			遺構外	滑A3	1.8	1.4	0.3		2.2	孔は極めて狭い。	中期	
158			遺構外	滑A1	1.7	1.3	0.6		1.8		中期	
159			遺構外	滑A2	1.7	1.3	0.5		1.3		中期	
160	中里下原遺跡	富岡市妙義町中里	82号住居	滑A3	2.3	1.9	0.7		1.3	表裏面は平坦で、括れ部中央がやや膨らみぎみ。	中期後半	出典38
161			81号土坑	滑A2	2.1	1.4	0.6		1.6	表面は凸状で、裏面は平坦。	中期中葉	
162			215号土坑	滑B1	4.9	4.3	3.7		2.2	大型で、表裏面は大きく凹状。丁寧な研磨。	中期後半	
163			268号土坑	滑A3	2.1	1.6	0.5		1.4	表裏面は平坦で、丁寧な研磨。	中期中葉～ 中期後半	
164			273号土坑	滑A2	2.4	1.7	1.0		1.8	表裏面ともやや凸状。	中期中葉～ 中期後半	
165	杣瀬Ⅱ遺跡	下仁田町馬山	遺構外	滑A1	(3.3)	(3.1)	(0.8)		1.2		中期	出典39
166	下鎌田遺跡	下仁田町馬山	137号住居	滑A1	2.0	1.7	1.0		1.8		中期	出典40
167			220号住居	白A2	3.6	3.3			3.2	表裏面は大きく凹状。	中期後半	
168			192号土坑	滑A2	2.7	1.8	1.2		2.0	表面は凸状となり、裏面は平坦で径が大きい。内面赤彩。	中期	
169			551号土坑	滑A1	2.8	2.6	1.9		1.6	内面赤彩。	中期	
170			1183号土坑	滑A3	2.3	2.1	1.0		1.6	表裏面は平坦。	中期	
171			1221号土坑	滑A3	3.0	2.5	0.7		1.9	裏面はやや凹状で、裏面は平坦。	中期	
172			遺構外	白A3	4.6	4.0			2.8	大型で、表裏面は大きく凹状。	中期	
173			遺構外	白A2	4.0	3.1			3.3	大型で、表裏面は大きく凹状。	中期	
174			遺構外	鼓A1	2.4	2.0			2.7	表裏面は平坦。表面に刺突文。	中期	
175			遺構外	鼓A1	2.2	1.7			2.4	表裏面は概ね平坦。表裏面とも同様な刺突文。	中期	

	遺跡名	所在地	出土遺構	形態分類	計測値(cm)					特徴・文様	時期	出典文献
					外径	括れ径	内径	端部径	高さ			
176	清里・長久保遺跡	前橋市青梨子町	13区5号住居	鼓A3	2.4	2.2			2.5	表裏面はやや凸状。表裏面とも同様な渦巻文。	中期後半	出典41
177			遺構外	鼓A1	3.0	2.8			2.0	表裏面は平坦。表裏面とも同様な刺突文。	中期後半	
178			遺構外	鼓A3	3.6	3.0			4.0	表裏面はやや凸状。表裏面とも同様な刺突文。	中期後半	
179	元総社蒼海遺跡群(116)遺跡	前橋市元総社町	J-1号住居	スA2	2.6	1.5		1.5	2.6	凸状となる下面には渦巻文と周縁に刺突文。側面の括れは明瞭で、上部は厚みをもつ。	中期後半	出典42
180	元総社蒼海遺跡群(123)遺跡	前橋市元総社町	J-11号住居	鼓A1	2.5	2.4			2.4	表裏面は概ね平坦。表裏面とも同様な2方向の2重弧線文。	中期後半	
181	荒砥二之堰遺跡	前橋市飯土井町	27号住居	臼B	3.7～2.7	2.7			2.1	表面は凸状で、裏面は概ね平坦。表面の中央には貫通しない狭い凹みをもつ。	後期初頭	出典43
182	堀越並木遺跡	前橋市堀越町	A・C地点遺構外	鼓A1	3.0	1.6			3.7	表裏面は平坦。表面には2方向の2重弧線文。裏面は3方向の弧線文。	中期	出典44
183			D地点遺構外	臼A1	2.6	-			-	片面はやや凹状で、2方向の2重弧線文と刺突文。	中期後半～後期初頭	出典45
184	天神遺跡	前橋市茂木町	遺構外	滑A1	4.2	3.3	1.6		3.0	大型。	中期	出典46
185	上ノ山遺跡	前橋市茂木町	遺構外	鼓A3	3.8	2.8			3.0	表裏面はやや凸状。表面には4方向の2重弧線文と刺突文。裏面は3方向の2重弧線文と刺突文。	中期後半	出典47
186			遺構外	鼓A2	3.6	2.7			-	片面は凸状で、刺突文。	中期後半	
187			遺構外	鼓A2	2.8	2.5			1.8	表面は凸状で、裏面は平坦。表裏面とも同様な3方向の2重弧線文。	中期後半	
188			遺構外	鼓A1	2.7	2.1			2.0	表裏面は平坦。表裏面とも同様な2方向の2重弧線文。	中期後半	
189			遺構外	鼓A2	2.1	1.7			2.5	表面は凸状で、裏面は平坦。表裏面とも同様な2方向の2重弧線文。	中期後半	
190	茂木山神Ⅱ遺跡	前橋市茂木町	J9号住居	滑A3	2.4	2.1	0.7		1.8	表裏面は平坦。	中期中葉	出典48
191	三和工業団地Ⅱ遺跡	伊勢崎市三和町	76号住居	滑A3	3.0	2.0	1.0		2.8	表裏面は平坦であるが、裏面は斜め。	中期中葉	出典49
192			978号土坑	臼A1	1.8	1.6			1.4	表裏面とも僅かに凹状。無文。	中期中葉	
193			1650号土坑	滑A2	2.3	1.8	0.6		-	片面はやや凸状。	中期後半	
194			遺構外	鼓A1	3.1	2.6			1.6	表裏面は平坦。表裏面とも同様な3方向の2重弧線文と刺突文。	中期中葉～後期初頭	
195			遺構外	滑A1	2.4	1.8	1.0		1.9	内外面に赤彩。	中期中葉～後期初頭	
196			遺構外	臼B	2.2	2.0			-	片面は凸状で、中央に貫通しない深い凹みをもつ。	中期中葉～後期初頭	
197			遺構外	鼓A1	1.7	1.0			2.1	表裏面は平坦。表面は渦巻文。裏面には渦巻文と周縁に刻み。	中期中葉～後期初頭	
198			遺構外	滑A1	2.0	1.6	0.7		1.9	表面の周縁に刻み。	中期中葉～後期初頭	
199			遺構外	滑A1	1.8	1.4	0.6		1.9	内外面に赤彩。	中期中葉～後期初頭	
200			遺構外	滑A1	2.0	1.7	0.4		-	孔は狭い。	中期中葉～後期初頭	
201			遺構外	鼓A2	3.7	2.4			-	片面はやや凸状で、4方向の2重弧線文と刺突文。	中期中葉～後期初頭	
202	下田遺跡	伊勢崎市田部井町	遺構外	臼B	3.5	2.0			-	片面は凸状で、中央に貫通しない深い凹みをもつ。	中期後半～後期初頭	出典50
203			Ⅱ区20号住居	鼓A2	2.8	2.1			2.5	表面は平坦で、裏面は凸状。表面は渦巻文。裏面には渦巻文と周縁に2重の刺突文。	後期初頭	出典51
204			Ⅱ区21号住居	鼓A2	2.4	1.6			2.3	表面は凸状で、裏面は平坦。表面に渦巻文。	中期後半～後期初頭	
205			遺構外	鼓A3	2.3	1.9			2.0	表裏面はやや凸状。表面に中央に渦巻文、4方向の弧線文と刺突文。	中期後半～後期初頭	
206			遺構外	鼓A1	2.6	2.5			2.0	表裏面は平坦。表裏面とも同様に、中央に渦巻文、4方向の弧線文と刺突文。	中期後半～後期初頭	
207	天ヶ堤遺跡	伊勢崎市三和町	58ビット	鼓A1	1.7	1.4			1.5	表裏面は平坦で、赤彩。	中期後半～後期前葉	出典52
208			遺構外	鼓A1	3.0	2.5			2.5	表裏面は平坦。表面に4方向の弧線文。裏面に渦巻文、	中期後半	出典53
209			本線Ⅲ区J-54号住居	滑A1	3.6	3.3	0.6		3.3	表裏面は凹状。	中期後半	出典54
210			本線Ⅲ区J-56号住居	滑A3	6.0	5.3	3.8		2.3	大型。表裏面の狭い平坦部に、同様な刺突文と沈線文。	後期初頭	
211			Ⅲ・3区遺構外	滑A1	3.7	3.3	1.6		3.6			
212			Ⅳ・4区128号土坑	臼A1	3.7	3.3			3.0	表裏面は凹状。	中期後半	
213			Ⅳ・4区1号不明遺構	滑A3	3.4	2.5	1.0		2.8	表裏面は平坦。	後期初頭	
214			Ⅳ・4区1号不明遺構	滑A3	3.0	2.3	0.6		3.4	表裏面は平坦。	後期初頭	
215	細谷合ノ谷遺跡	太田市細谷町	3区3号住居	滑C	6.6～5.0	4.6	2.0		3.0	大型で、表裏面は平坦。表面は径が大きく、平坦部に沈線と刺突が巡る。	後期初頭	出典55